

# 総合病院インフォメーション'21年版

2021(令和3)年12月15日発行

発行 青梅市立総合病院 事務局管理課・広報サービス委員会 〒198-0042 青梅市東青梅4-16-5  
☎0428-22-3191 FAX0428-24-5126 URL <https://www.mghp.ome.tokyo.jp/>



## 新型コロナウイルス感染症への対応

院長 大友 達一郎

昨年本欄で新型コロナウイルス感染症（以下新型コロナと略します）に対する、青梅市立総合病院（以下当院と略します）の対応について述べました。新型コロナはその後にも猛威を振るい、特にこの夏の第5波は記憶に新しいところです。ここでは第5波に対する当院の対応を含め、これまでの新型コロナに対する当院の対策を改めて振り返ってみたいと思います。

ずに対応しておりました。なお、新型コロナ第2病棟の運用終了に伴って、9月20日からは予約入院の制限も解除して通常診療となっています。

令和2年3月の受入れ開始から令和3年10月までの間における新型コロナ患者さんの入院総数は、疑いも含めて650名に上っており、そのうちおよそ1/3は第5波の時期での対応となっています。また、救急外来に新型コロナ患者さんの手術が可能な陰圧の手術室を整備しており、疑いを含む4名の患者さんに対して、緊急帝王切開などの緊急手術も行いました。

※ECMO（エクモ）…重症呼吸不全患者等に対して行われる心肺補助装置

### 新型コロナウイルス感染症に対する対応

当院は第二種感染症指定医療機関ですが、現在は新病院建設のため感染症専用病床は休止となっています。このため、病棟の1つについて、中央に仕切り壁を設置する改修工事を施すことで、手前側は一般の病棟のまま、奥側を新型コロナ専用病棟として患者さんの受入れを行っています。市中感染増加時には新型コロナの入院患者さんが増加しますので、手前側も含めた病棟全体を新型コロナ専用として運用することも可能で、実際には第3波後半にあたる令和3年2月から現在まで病棟全体を新型コロナ専用とする対応が続いています。この他に、集中治療室を改修して、人工呼吸器やECMO※が必要な重症患者さん用の入院病床を用意するとともに、小児科病棟、産科病棟でも新型コロナの入院患者さんの受入れが可能となっています。

本年夏の第5波の際には、東京都全体で新型コロナの入院病床が不足しました。西多摩でも自宅療養中の患者さんの入院病床が逼迫する事態となり、この対応として、当院では第5波ピークの8月6日から9月17日までの間、上記の新型コロナ専用病棟に加えて、さらにもう1病棟を新型コロナ専用に変換し、患者さんの受入れを行いました。西多摩保健所と連携して、自宅療養中の患者さんの病状が悪化した際には必ず当院で受け入れる対応を図り、ピーク時には新型コロナの入院患者数は最大で65名に上っています。この2つ目の新型コロナ専用病棟は、新型コロナの入院患者さんが減少した9月17日で運用を終了し、現在は一般の病棟として入院患者さんを受入れております。

一方で、上記の対応期間は、もともと新病院建設のために通常より2病棟少ない状況に加えて、さらに2病棟を新型コロナ用に転用する状況となり、一般の患者さん用の入院病床が絶対的に不足しました。このため、予約の入院を制限せざるを得ず、地域の皆様には大変ご迷惑をおかけいたしました。しかし、この間も、救命救急センターがあり、地域医療支援病院でもある当院の役割を考慮して、救急の入院や地域の医療機関からの紹介患者さんの入院には制限をかけ

### 感染症に強い病院を目指して

令和2年度の秋と冬には、2回の大きな院内感染クラスターが発生し、救急を含む地域医療に多大なご迷惑をおかけして、大変申し訳ありませんでした。当院では、その反省をもとに、「職員の感染予防教育と個人防護具の強化」、「感染疑い者の早期発見と迅速な対応」、「患者さんの受入れ体制の整備」、「入院患者さんに対する感染予防教育」、の4点を徹底して、感染予防に努めています。令和3年度は、5月に変異株による小規模な院内感染が発生いたしましたが、それ以降は、第5波の期間も含めて院内感染の発生を認めていません。

また、現在進行中の新病院本館建設に関しても、これまでの新型コロナへの対応経験を活かして、救急外来における感染診療エリアの拡充や、患者さんの入院数に応じて区画を変更できる感染病棟の整備、感染対応可能な集中治療室や手術室など、大幅な設計の見直しを行いました。今後、新病院本館開院後においても、新規感染症のパンデミックに対応できる設備になるものと自負しております。

### 最後に

第5波ピーク時には、西多摩でも新型コロナの患者さんの入院病床が不足する事態となりました。当院では西多摩保健所と連携し、「西多摩地域の自宅療養中の患者さんの病状が悪化した際には必ず受け入れる」を方針として、妊娠中の方や緊急手術が必要な方を含め中等症や重症の新型コロナの患者さんを受け入れてまいりました。現在は、今後想定される第6波に対して、西多摩保健所、当院を含めた公立3病院、地域の医師会が連携して、各病院の新型コロナの入院病床をより効率的に運用する取り組みを始めています。入院治療が必要な西多摩地域の患者さんの受入れに必ず対応できるように、今後も西多摩医療圏の中核病院として新型コロナの診療に取り組んでまいりたいと考えています。

## 新病院建設工事について

新病院建設担当

### 1 新病院本館新築工事着工中



(山留・掘削工事状況 令和3年8月) (本館建築工事状況 令和3年10月) (本館完成予想図 北東側より)

新病院建設事業は、新病院本館新築および渡り廊下棟新築からなる新病院建設工事の施工者を令和3年1月に決定し、工事に着手しています。

これまでに仮設工事、インフラ盛替え工事、山留工事、南棟ほか地下躯体解体工事および掘削工事と順調に工事を進めています。

特にインフラ盛替え工事では、受水槽の撤去・新設、医療ガス設備の移設切替えおよび電気・ガス・給排水管の切り回し工事など、新病院本館の建設に障害となる既存設備の移設を行いました。

今後は、新病院本館の基礎工事および地下躯体工事を行い、令和4年2月には免震装置の設置、3月からは鉄骨工事に入る予定です。

工事車両の往来や作業に伴う騒音など、皆様にはご迷惑をおかけいたしますが、安全管理を徹底し、細心の注意を払いながら工事を進めてまいりますので、ご理解とご協力をお願いします。

なお、新病院建設事業の進捗状況は、当院ホームページ等にて随時お知らせいたします。

### 2 『病院名称の変更』を検討中

当院は、昭和32年の開院時から「青梅市立総合病院」の名称で運営してまいりましたが、病院の建替えを契機に新病院に相応しい病院名称に変更したいと考えております。

これまでは、青梅市を中心に地域密着型の病院として貢献してまいりましたが、国の医療政策や東京都の地域医療構想等では、当院は西多摩地域で高度急性期医療を提供する唯一の病院としての役割を確実に果たしていくことが強く期待されています。従って、医療圏域が西多摩全域に広がるとともに、求められる医療機能も幅広く、より高度で専門的で質の高いものとなっています。

このため、新病院では、「より広域の中心にある医療機関」、「高度で総合的な医療機関」という新たなイメージのもと、西多摩地域の基幹病院として、地域と連携しながら、高度急性期・高度専門医療へ重点を移した病院としてスタートを切ろうと考えております。

また、地域の皆様から信頼されること、医療スタッフが誇りと責任感を持ち、高度な医療サービスを提供できるようにすること等も考慮し、新しい病院名称の検討を行っています。

なお、新しい病院名称に関して令和4年2月にパブリックコメントを実施する予定です。詳細は改めてお知らせいたしますので、市広報または当院ホームページでご確認ください。

### 3 新病院建設にかかる寄付にご協力ください

当院では、新病院建設にかかる寄付を受け付けています。寄付の方法、受付の窓口等、詳細については当院ホームページをご覧ください。経営企画課へお問い合わせください。

# 青梅市立総合病院 診療科紹介

## ① 脳神経内科

①主に脳梗塞などの脳卒中（脳血管障害）の他、脳神経や筋肉の変性疾患、炎症やてんかん発作などの診療を行っています。意識の障害や手足に力が入りにくい、言葉や会話の異常、手足のしびれ、歩行困難、頭痛、めまい、手足の震え、物忘れなどが代表的な症状です。②脳卒中は多くの場合緊急治療が必要となり、当科は脳神経外科と共同で脳梗塞の血栓溶解治療や血栓回収治療を積極的に推進しております。また神経筋疾患の各種画像検査や神経電気生理検査、神経筋生検など専門的検査も可能です。③脳神経や筋の症状は分かりづらく、何科に受診すべきか悩ましい場合があります。そのような時も含めて随時脳神経内科外来にご相談ください。

## ② 脳神経外科

①脳卒中（脳梗塞、脳出血、くも膜下出血）、頭部外傷、脳腫瘍などの主要疾患の他、水頭症、三叉神経痛、顔面けいれんなどの外科的治療を中心として、脳卒中センター、脳神経内科、救急科などと協働して治療を行っています。②特に当科では救急医療を重視し、重症救急患者はできる限り受け入れて、必要な治療を迅速に行えるように努力しています。一方で治療の安全性・有効性を高めるために、術中ナビゲーションシステム、神経内視鏡、電気生理学的モニター、術中蛍光血管撮影、悪性脳腫瘍の化学療法・電場腫瘍治療など、積極的に先端医療に取り組んでいます。

## ③ 脳卒中センター

①当センターには二つの役割があります。まず脳卒中の救急患者さんを最短時間で受け入れ、最短時間で治療を行うことです。このため、救急科・脳神経外科・脳神経内科との協働で、脳卒中に対応しています。脳梗塞の患者さんに、血栓を溶かす薬を有効に使うには、発症からの時間が短い方が良く、出来るだけ早く病院に到着する必要があります。また近年、カテーテルによる血栓回収治療の有用性がわかり、この治療にも取り組んでいます。もう一つの役割は、脳動脈瘤によるくも膜下出血や、頸動脈狭窄症による脳梗塞を予防するために、予定手術で、カテーテル、コイル、ステントなどを使って行う血管内治療です。これらが当センターの特徴です。

## ④ 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

①耳（中耳炎、突発性難聴、顔面神経麻痺、めまい）、鼻（アレルギー性鼻炎、副鼻腔炎）、のど（扁桃炎、魚骨などの咽頭異物）などの一般的な耳鼻咽喉科疾患や、頭頸部腫瘍（頸周りのしこり、舌がん、喉頭がん、咽頭がん、甲状腺腫瘍）などを担当する診療科です。②頭頸部腫瘍の診療を得意としています。頭頸部がん専門病院とも連携して、中規模病院では扱いの難しい頭頸部がんの治療も積極的に行っています。③のどの炎症（扁桃炎、扁桃周囲膿瘍）はなるべく早く治るように治療しています。頸のしこりが気になる方も、当科で詳しく調べることができます。診療経験も豊富です、安心して受診してください。

## ⑤ 眼科

①白内障、緑内障、糖尿病網膜症などの網膜疾患、加齢黄斑変性、ドライアイ等の病気を担当します。複視（物が二重に見える病気）についても担当します。②白内障は手術、緑内障は目薬による治療、糖尿病網膜症はレーザー治療、加齢黄斑変性は注射、ドライアイは目薬による治療を行っています。③緑内障や糖尿病網膜症は早期発見が大切です。両者とも早期には症状がなく、異常を感じた時には病気が進行していることが多いです。健康診断等で目の異常を指摘されたら放置せず、眼科受診をされること、高血糖を指摘されたら放置せず、まず内科受診をされることをお勧めします。

## ⑥ 歯科口腔外科

①顎・口腔領域（あごや口の中）に発生する様々な疾患の治療を専門としています。当院の性格上、心疾患や糖尿病など内科的疾患を有する患者さんの外科処置も数多く手掛けています。②疾患別にみて最も多いのは埋伏智歯（親知らず）の抜歯です。顎関節症は、埋伏智歯に次いで多い疾患です。主としてマウスピースや運動療法を用いた保存的治療を行っています。口腔粘膜疾患は口腔内の局所的な原因で生じるばかりではなく、全身疾患や皮膚疾患の部分症状である場合も多いことから、他科との協力関係のもとに治療にあたっています。③当科を受診される際には、紹介状をご持参いただくと治療がスムーズです。

## ⑦ 整形外科

①腰痛、手足のしびれ、歩行障害、骨折など、骨、筋肉、関節、靭帯、神経といった「運動器」のけがや老化現象による痛みや機能障害・傷害に対して、手術、保険方法およびリハビリなどで改善を図ります。②背骨、股関節、手首などの骨折や、変形性関節症、脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニア、骨粗鬆症など、若者男女を問わず多彩な疾患に対して、脊髄、手・上肢、股関節、膝関節、骨軟部腫瘍の各分野の専門医師が豊富な経験のもと、手術や診療にあたります。③手術は年齢だけで決めることなく、患者さんのニーズに沿って、タイミングを重要視し、負担の少ない方法を検討して早期回復・復帰を目指していただきますので、「お困りのこと」を安心してご相談ください。

## ⑧ 腎臓内科

①腎機能障害を生じる慢性腎臓病、たんぱく尿など検尿異常を生じる腎炎・ネフローゼ症候群、高度の腎機能障害を生じる慢性腎不全や急性腎不全の診断と治療、また、血液透析や腹膜透析、血液浄化療法全般の診療を行っています。②腎疾患全般から透析治療、血液浄化療法まですべてを実施しています。③たんぱく尿などの検尿異常や腎機能障害は、早期の診断と治療が大切になります。定期検診をきちんと受けていきましょう。

## ⑨ 泌尿器科

①腎臓、膀胱、そしてその間の尿管などの尿路に関わる臓器および前立腺、陰茎、精巣などの治療を担当しています。それぞれのがんに対する手術や抗がん剤治療はもちろんのこと、尿管結石の治療や頻尿、尿の出しづらさといった、排尿に関する症状の治療も行っています。②腎臓がんや、膀胱がん、前立腺がんなどに対する腹腔鏡手術を週に2例程度、日常的に行い、豊富な治療経験を有しています。また、自然に出すのが難しい大きさの尿管結石に対しては内視鏡によるレーザー碎石術で速やかに治療しています。③尿に関係する臓器一般を取り扱う専門家が泌尿器科医です。がんから排尿に関する悩みまで幅広く診療しておりますのでお気軽にご相談ください。

## ⑩ 産婦人科

①妊娠出産に関すること、月経や女性ホルモンに関すること、更年期症状・子宮脱などの閉経期以後の症状、女性性器の感染症・良性腫瘍・がん（悪性腫瘍）など、女性の健康に関することに幅広く対応しています。授乳中以外の乳房の異常は乳腺外科の担当になります。②一般的な産婦人科診療に加えて、ハイリスク妊娠の管理、腹腔鏡下手術・子宮鏡下手術などの負担の少ない手術、子宮脱に対する手術治療、婦人科がん治療を得意としています。科全体で常に連携して診療の質を高めています。③産婦人科受診に抵抗がある方もいらっしゃると思いますが、医師・看護師とともに誠心誠意対応しますので、どうぞ安心して受診してください。

## ⑪ 呼吸器内科

①呼吸器感染症（肺炎など）、アレルギー性の呼吸器疾患（気管支喘息・過敏性肺炎・間質性肺炎など）、肺悪性腫瘍（肺がんなど）、およびCOPDや睡眠時無呼吸症候群などの疾患を扱っています。②呼吸器疾患の数は多いため診断に難渋することもあります。クライオバイオプシーという通常よりも大きな組織を採取できる気管支鏡システムを最近導入し、診断力が向上しています。肺悪性腫瘍には種々の治療を組み合わせで行います。そのため最も必要な治療が迅速に受けられるよう他科との連携体制を整えています。③気になる症状がありましたらぜひ拝見させていただきます。その際にはかかりつけ医からの紹介状をご持参ください。

## ⑫ 循環器内科

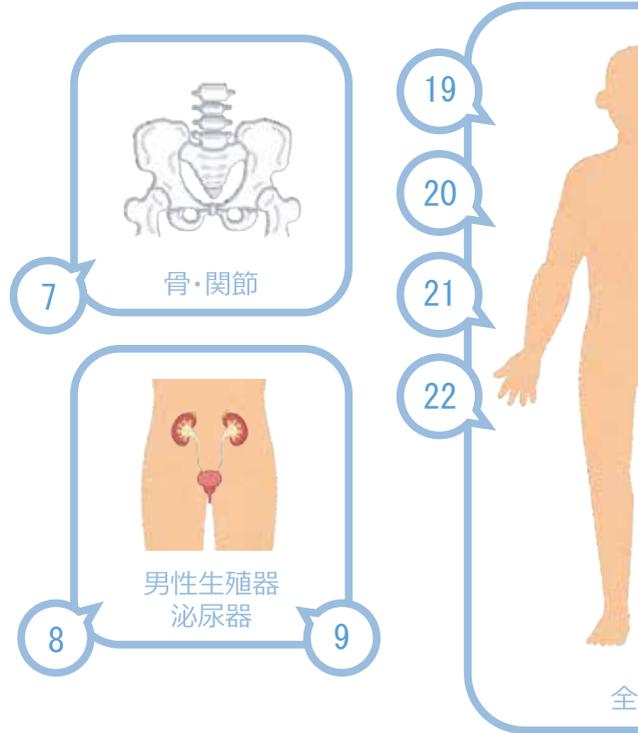
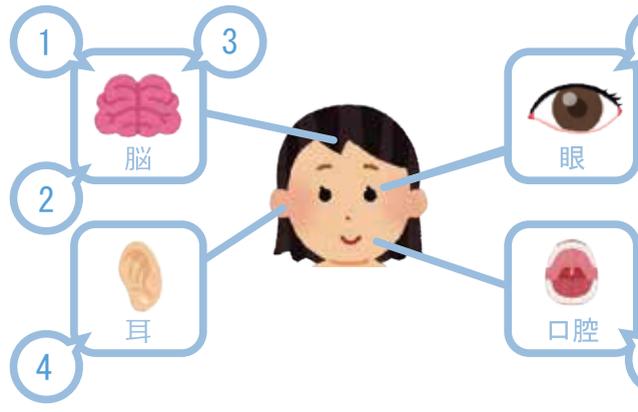
①狭心症、心筋梗塞、閉塞性動脈硬化症（心臓や足の血管が詰まる病気）、心房細動（脈の乱れる不整脈）、心不全（心臓ポンプ機能の低下）等を診ています。心臓は命に関わる病気が多く、高度な技術を要するカテーテル検査治療専門領域を行います。②カテーテルという管を使った心臓の血管（冠動脈）や下肢の血管を拡げるステント治療、心臓に熱を加えて心房細動などの不整脈を抑えるアブレーション治療、遅い脈による失神や心不全を助けるペースメーカー治療、命に関わる危険な不整脈（心室頻拍、心室細動）を停止させる植込み型除細動器治療を行っています。③病状の安定した方は地域の診療所での診療を逆紹介します（地域医療連携）。

## ⑬ 胸部外科（心臓血管外科）

①心臓の血管が狭くなる虚血性心疾患、心臓の弁が壊れる弁膜疾患、大動脈瘤や解離などの大動脈疾患、足の血管が狭くなる末梢血管疾患といった心臓と全身の血管に対する外科治療を行っています。②虚血性心疾患に対する心拍動下冠動脈バイパス術や、大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術、弁膜症に対する小開胸手術、末梢動脈に対する血管内治療など、患者さんの負担が軽くなる治療を選択できます。③以前と比べて「疲れやすい」・「息があがる」・「歩くと足がつる」と感じたのを「もう年だから」と放置していませんか？それは心臓大血管疾患のサインかもしれません。気軽にかかりつけ医や我々専門医を受診してみてください。

## 診療科

総合病院としての強みを生かす



## ⑭ 胸部外科（呼吸器外科）

①肺の病気（肺がんや気胸など）や縦隔腫瘍（胸腺腫など）に対する手術を担当しています。②多くの手術を胸腔鏡手術で行っております。胸腔鏡手術では術者も助手もカメラで映し出された胸の中の映像を見ながら、棒状の道具を使って手術をします。道具が出入りできる大きさの創で済むので、小さな創で手術でき、術後の痛みや体への負担が軽減します。そのほか早期の肺がんに対して従来よりも肺の切除範囲を縮小した手術（肺区域切除）も行っております。③肺がんは早期発見できれば治せる疾患になりつつあります。タバコを吸う人も吸わない人も、年に一度は検診でのレントゲン検査をお勧めします。



血液

当院で外来治療を行っている診療科を紹介します。  
体調に不調を感じた時などに相談先を検討する参考としてご利用ください。

- ① 診療科の紹介
- ② 得意な症例（手技）
- ③ 各科より患者さんへ一言

### 15 消化器内科

①食道・胃・小腸・大腸といった消化管、肝・胆のう・膵臓と幅広くおなかの臓器の病気を担当します。薬物、抗がん剤といった非手術療法や内視鏡を用いた治療が中心となります。②消化管出血、胆道感染症など緊急を要する病気や肝疾患・炎症性腸疾患など慢性疾患の診断治療、消化器がん診断治療、早期胃がん・大腸がんに対する内視鏡治療に力を入れています。③消化器外科、放射線科（診断・治療）とも連携して診療にあたっております。胃腸の調子がすぐれない、検診などで肝臓機能障害を指摘されたなど、ご心配がありましたら、必要な検査や専門的治療についてご相談させていただきます。

### 17 精神科

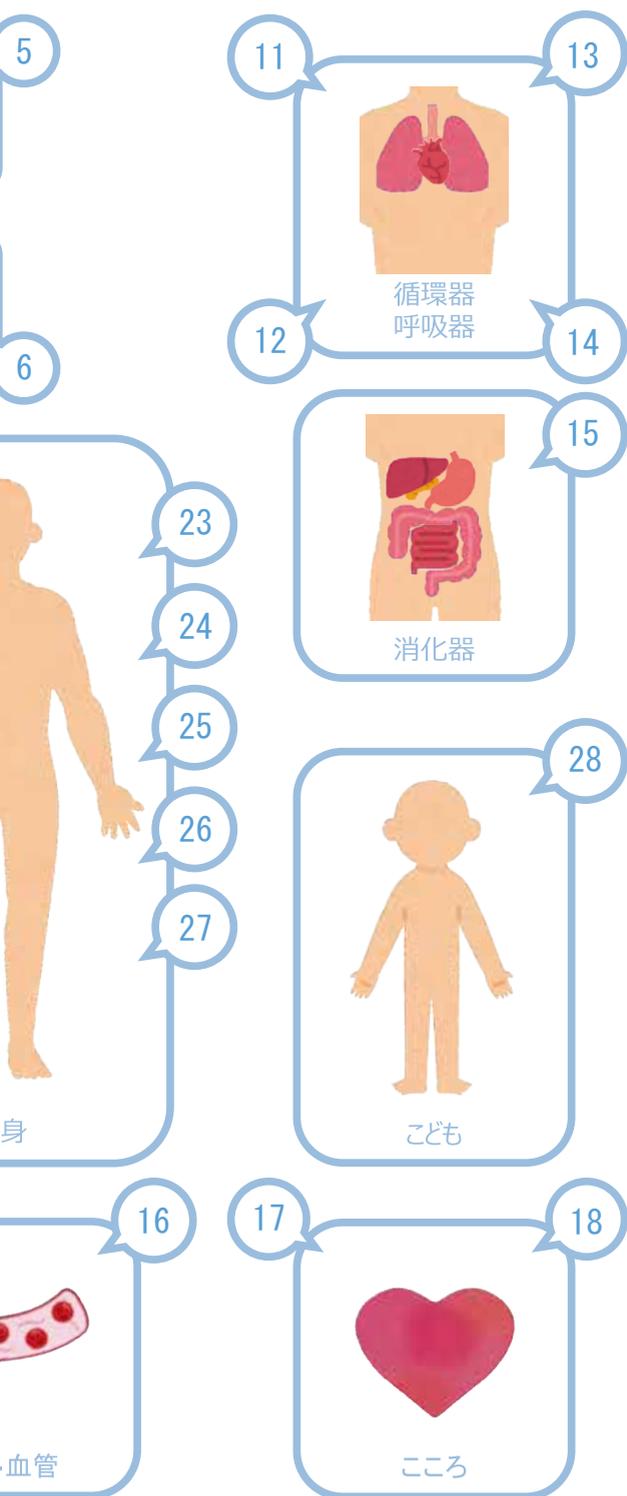
①気分障害（うつ病、躁うつ病）、統合失調症、神経症、老年期認知症、不眠症、身体疾患に伴う精神症状など幅広い精神疾患を対象に外来でのプライマリーケアから入院治療まで連続した治療環境を整えています。高齢化社会に対応して「もの忘れ」等の相談を専門とした外来を設置しています。②総合病院の利点を生かしクリニックや精神科病院では難しい画像検査や脳波など先進機器を使った検査や心理検査を積極的に行っています。新患は時間をかけてお話が聞けるよう予約制になっています。③「薬の多すぎない」精神医療を目指しています。心のケアは早期発見・早期治療が大切です。「いつもと違う」心の状態に気づいたらぜひご相談ください。

### 23 外科

①「メス」を手に「鬼手仏心」の言葉を胸に、患者さんのお腹の中の破壊・征服を目論む悪の組織に敢然と立ち向かう外科軍団です。②がん診療拠点病院であり、胃や腸や肝臓膵臓に集く悪（＝悪性の腹部疾患）との闘いが多く、手術で身体にかかるメガトン級負担を見事に軽減する新戦法＝腹腔鏡手術や、手ごわい真の巨悪に対する化学療法・放射線治療を併用しての徹底抗戦手術は、まさに望むところです。「悪」には分類されないものの、お腹を蝕み、患者さんの表情を曇らせる虫垂炎・胆石・腸閉塞・鼠径部ヘルニアとの闘いも日常茶飯事です。③「これは、多分手術ですね、外科ですね」と言われても、大丈夫です。「プロ」が「プロの手術」を請け負います。

## 案内マップ

、全身の診療を行っております。



循環器  
呼吸器

消化器

子ども

こころ

身

血管

### 16 血液内科

①白血病、リンパ腫、多発性骨髄腫などの血液悪性疾患、免疫性血小板減少症、溶血性貧血などの血液疾患を担当します。専門性が高い病気であるため自己発見は難しく、貧血、感染症、出血などの症状をきっかけに、当院に紹介受診となることが多いです。②慢性骨髄性白血病の治療、お薬中止に至るまでの治療過程を研究しています。研究成果は国際的な有名学術誌（The Lancet など）に毎年発表しています。リンパ腫などに対する最新の分子標的治療も行っています。③動悸、息切れなどの貧血症状、出血が止まりにくいなどの出血症状、進行性リンパ節腫脹などがみられたら受診しましょう。血液内科疾患の早期発見につながります。

### 18 緩和ケア科

①当科は緩和ケアチームとして活動しており、外来通院中もしくは入院中の患者さんを対象に、病気の治療中に起こる様々な身体症状や精神心理症状、社会的問題などに対して主治医や担当看護師と協力しながら解決にあたります。②がん、末期心不全、慢性閉塞性肺疾患、肝硬変、慢性腎不全、神経難病など生命を脅かす病気を抱える患者さんとそのご家族を対象としています。③当ケアチームにご相談いただいた後も、主治医や担当看護師、入院病棟等の変更はありません。また、チームの介入は治療と並行して診断時から受けることができます。相談をご希望される方は主治医、担当看護師にお声かけください。

### 19 総合内科

①当院では各診療科で専門性の高い診療を行っております。そのため、受診なさる方の症状や病状によってはどの診療科を受診したらよいか迷われる場合もあるでしょう。総合内科はそのような場合に専門診療科への窓口として、受診していただくことができます。1～2回の診察で解決すべき問題点を見出して整理し、必要に応じて専門診療科への橋渡しを行います。成人病や慢性疾患など継続的な診療が必要な場合には、地域の診療施設などへのご紹介も行っています。②受診にあたっては近隣の医療機関からの紹介状または健診結果票などをお持ちください。紹介状の無い受診の場合には選定療養費をご負担いただく場合があります。

### 20 内分泌糖尿病科

①糖尿病・脂質異常症（コレステロールが高い・低い、中性脂肪が高い）やホルモンの病気（甲状腺や副腎の病気：内分泌疾患）を担当しています。比較的重症な糖尿病患者さんを多く診療しています。②注射薬を使用した糖尿病のコントロール、パセドウ病の治療、高血圧症の原因となる原発性アルドステロン症の検査を得意としています。また、1型糖尿病患者さん向けにインスリンポンプ・持続血糖モニタリングを活用して積極的に診療しております。③糖尿病を放置すると合併症（目・腎臓・神経の病気など）は進行します。症状はなくても定期健診を受けましょう。

### 21 リウマチ膠原病科

①関節リウマチ、膠原病（全身性エリテマトーデス、全身性強皮症、多発性筋炎・皮膚筋炎、血管炎候群）など、免疫の異常が原因となる病気を担当します。関節痛・皮膚症状や、肺・腎臓・神経といった臓器・器官の異常のほか、原因不明の発熱などが受診のきっかけになります。一般の医師には診断・治療が難しく、専門性が高い診療科です。②関節リウマチ、膠原病全般の診断・治療を得意とします。「厚労省難治性血管炎に関する調査研究班」で血管炎症候群の研究にも携わっています。③関節リウマチ、膠原病では、発症早期の適切な診断と治療が大切です。当科は診療経験も豊富です。安心して受診ください。

### 22 皮膚科

①アトピー性皮膚炎、接触皮膚炎、薬疹、蕁麻疹などアレルギー疾患、細菌（とびひ、蜂窩織炎）、ウイルス（帯状疱疹、ヘルペス）、白癬などによる皮膚感染症、褥瘡や潰瘍、熱傷、自己免疫性水泡症や乾癬など専門的診断や治療が必要な疾患を担当します。また皮膚腫瘍については形成外科や専門病院とも連携して対応します。②③皮膚に病変を生じる疾患に対して皮膚生検や採血、パッチテストなど精査も含めて外来診療を行なっています。ほろろだと思っていたら皮膚がんだった。湿疹だからと市販薬を塗っていたが皮膚の難病だったなど放置してしまうと危ない皮膚疾患もあります。かかりつけ医から紹介状をご持参いただき当科を受診してください。

### 24 放射線診断科

①当科はレントゲン、CT、MRI、RI、PET、血管造影などの検査を院内各科や院外からの依頼に応じて行っています。撮影を担当する技師の他に医師がいて、より良い検査が必要最低限の被ばくでできるような撮影方法を指示し、画像を診断し依頼医に向けてレポートを配信（令和元年度は約27700件）しています。またカテーテルなどをを用いた治療を行うこともあります。②上記の診断を全般に担当しています。PET/CTが一昨年度内、CTが昨年度内に更新され、被ばく線量が低下し画質が向上しました。③直接お目にかかる機会は少ないですが、高度化、専門化が進む画像診断の技術と知識が診療に十分に活かされるように各科と協調して医療を支えています。

### 25 放射線治療科

①がんを始めとする悪性腫瘍に対する治療を他科の医師とともに行っています。脳腫瘍・頭頸部腫瘍・肺がん・食道がん・前立腺がん・子宮がん・リンパ腫等の全身原発性腫瘍のほか、転移性腫瘍（脳転移・骨転移・肺転移など）に対しても治療を行っています。ライナックと呼ばれる体外照射を主に行っていますが、ラルスと呼ばれる腔内照射（小線源治療）や放射性医薬品を使用した内用療法なども行っています。②乳がんや前立腺がんの患者さんが近年多くなってきている傾向があります。③がん・悪性腫瘍の治療では早期診断・早期治療が第一とされていますので、普段と違う症状がありましたらお近くの医療機関を受診してください。

### 26 麻酔科

①主に手術の麻酔を行っています。患者さんが、なるべく苦痛やストレスのない状態で、安全に手術を受けられるようにします。医療機器や手術法が格段に進歩して、ご高齢であっても手術を受けられるようになりました。手術の内容・受ける患者さんの状態等をしっかりと検討して、安全な麻酔を行うように心掛けています。②麻酔には、全身麻酔と局所麻酔がありますが、両者を組み合わせることも多くなりました。当院では、硬膜外麻酔や脊椎麻酔を多数行ってきましたが、近年は末梢神経ブロックを行う症例が増えています。③麻酔に関する疑問や要望などありましたら、手術前の麻酔科受診の時に、ご質問・ご確認ください。

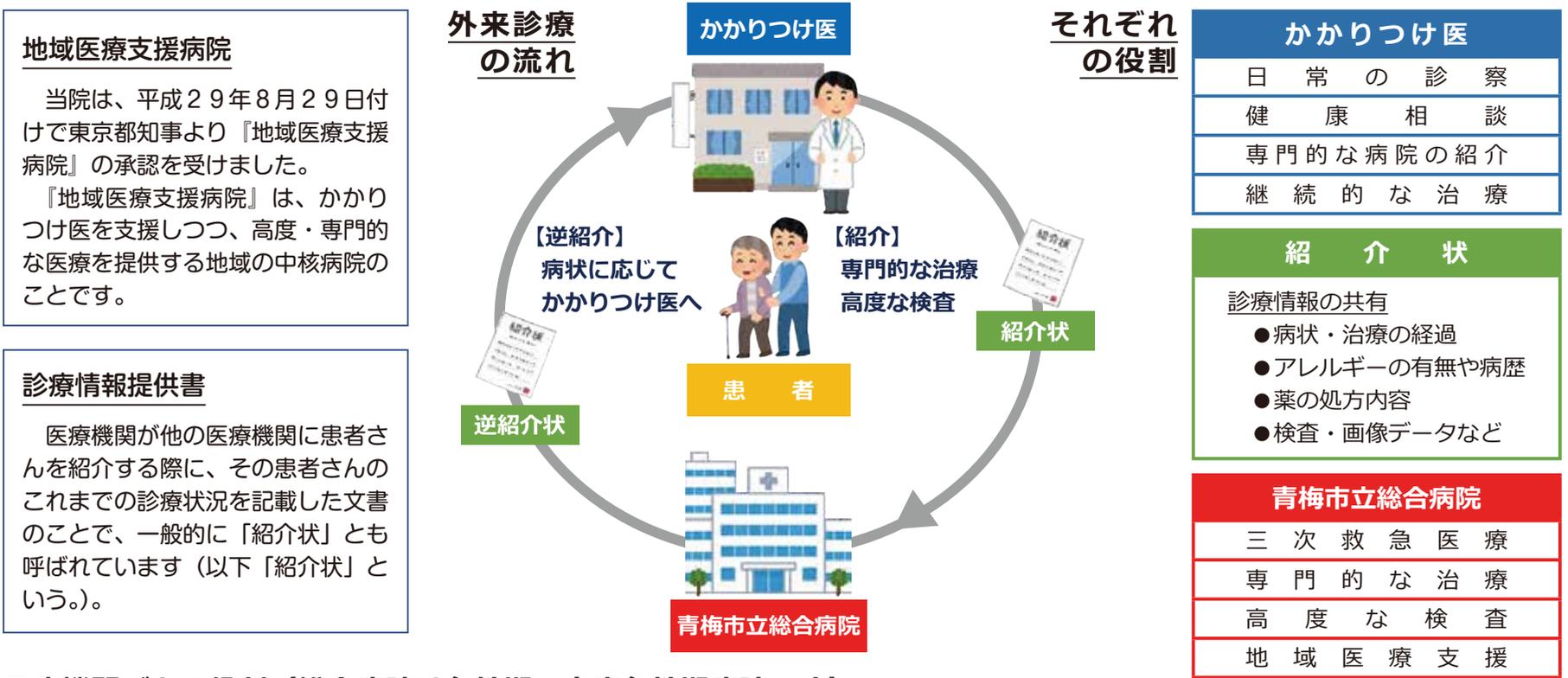
### 27 救急科

①24時間365日、病気やケガを問わず、さらに重症だけでなく中等症や軽症であっても困っている患者さんすべてを担当しています。多岐にわたる病気やケガを担当するため、当科だけでなく必要に応じて各診療科と連携し病院全体で救急診療を行っています。②病気・ケガすべてを守備範囲にしているため特に専門分野はありません。逆に言えば抜けが無いようにすることや、病状の重症度・緊急度を瞬時に判断することを得意としています。さらにその時に困っている訴えを少しでも早く緩和する事が出来ます。③重症度や緊急度の度合いによって診察の順番が前後します。患者さんの状態を確認してから決めますのでご協力をお願いします。

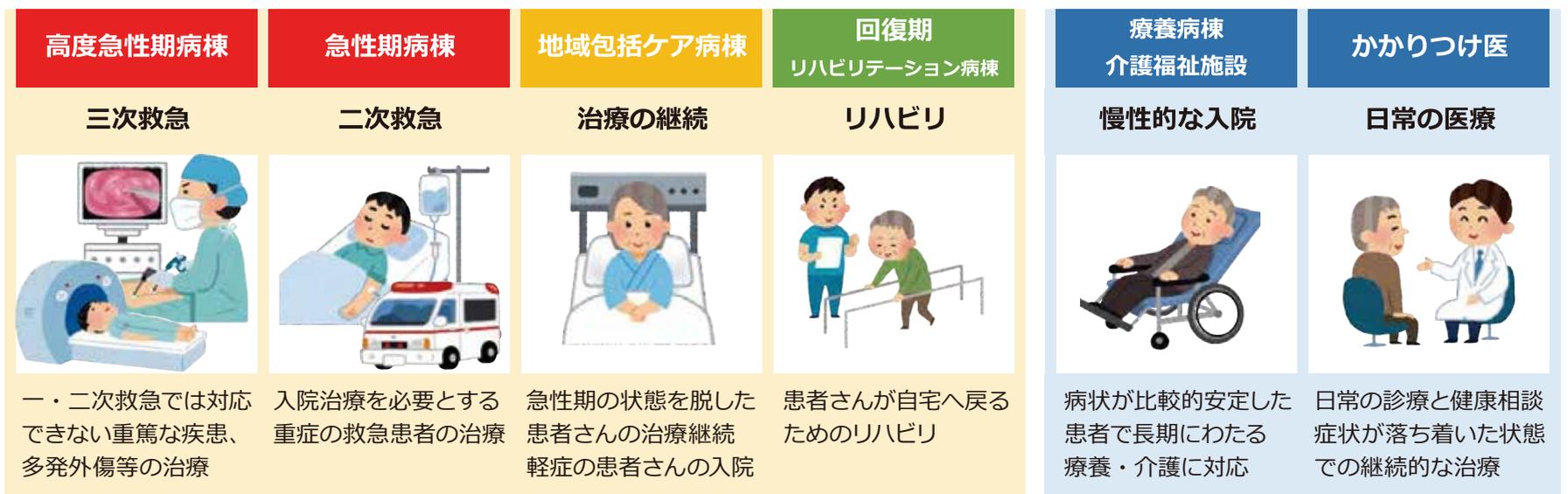
### 28 小児科

①病気の診療から子育てや発達の相談まで、幅広くお子様の健康と成長・発達を守るお手伝いをしています。休日夜間の小児救急外来も24時間365日対応し、地域周産期連携施設として新生児医療にも対応しています。②発熱やかぜ・胃腸炎などの一般診療以外に、神経疾患、心臓疾患、アレルギー疾患、腎疾患、内分泌疾患、心身症などは専門外来も設けています。専門機関との連携やご紹介も臨機応変に対応します。③お子様の具合が悪い時、なんとなく気になる時、どうしたらよいか保護者の方だけで悩まずにぜひ当科にご相談ください。成長・発達段階や子育て環境も視野にいた、細やかな小児診療を心掛けています。

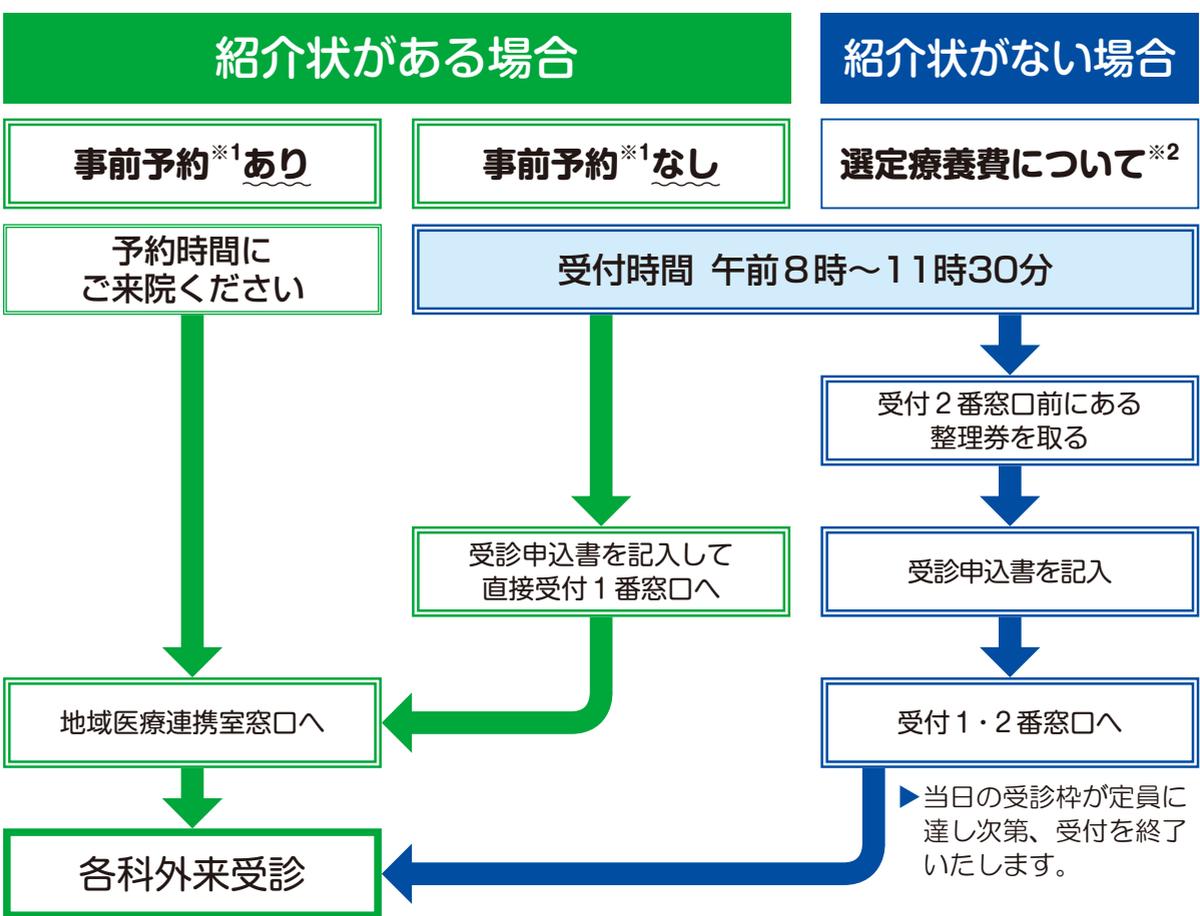
## 地域医療から見る 青梅市立総合病院の役割



### 医療機関ごとの役割（総合病院は急性期・高度急性期病院です）



## 外来のかかり方 当院を受診する方へー受付の流れについてご説明しますー



**救急受付のご案内**

直接来院される患者さんの診療受付時間については、土・日・祝日を含め、毎日夜9時から翌朝8時とさせていただきます。なお、原則として救急車の受入れ、他院から紹介の患者さんに24時間対応しています。

※<sup>1</sup> 事前予約について  
かかりつけ医に紹介状を書いてもらう際に、あわせて当院の予約も行ってもらうものです。来院時の受付手続きの時間も短くなります。

※<sup>2</sup> 選定療養費について  
当院は地域医療連携病院の指定を受けているため、他の医療機関からの紹介状を持参せずに受診する場合は、原則として選定療養費（5,000円（税別））をお支払いいただきます。  
なお、健康診断、人間ドック、検査等の検査結果表は紹介状としては扱えませんのでご注意ください。

▶ 地域医療連携病院として紹介状をお持ちの方を優先して診療しています。